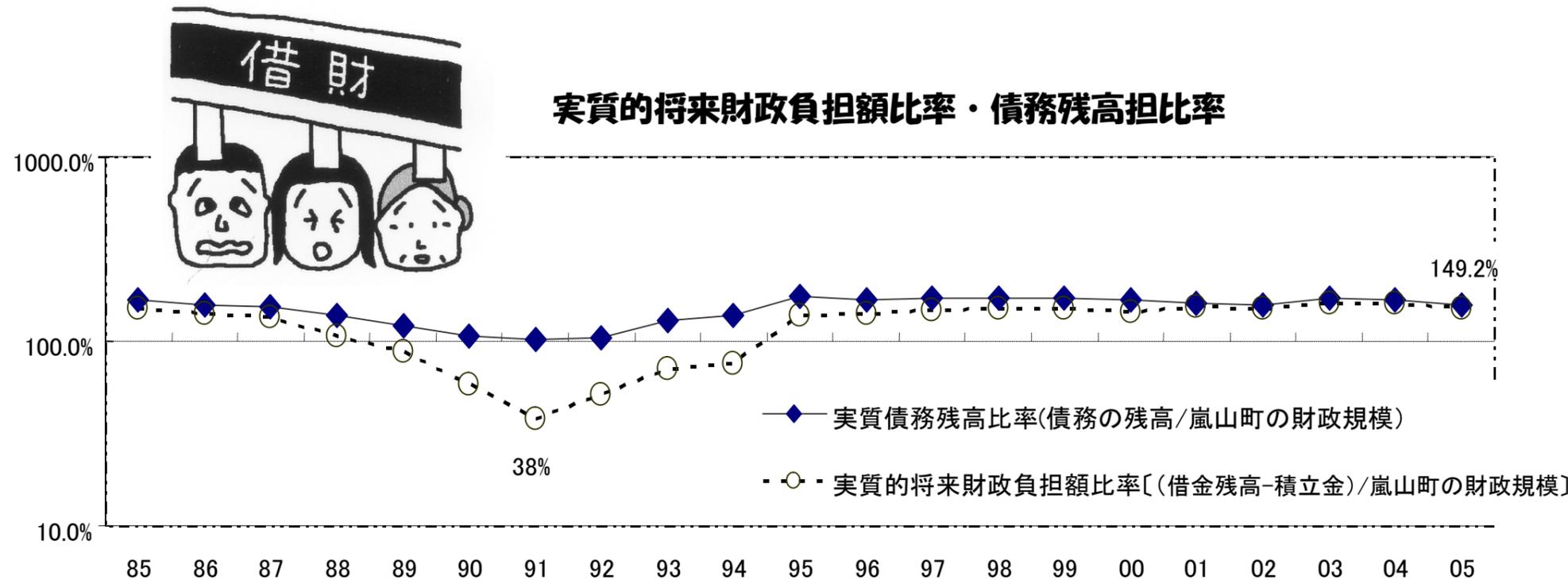


# 嵐山町の財政白書が必要です。嵐山町財政を町民の立場から分析しましょう。

● 嵐山町は、役場新庁舎建設・図書館建設・橋上駅建設などの都市整備を、バブル後の国の景気対策を活用して展開しました。便利になった反面、財政は苦しくなりました。

実質的将来財政負担額比率〔(借金残高-積立金)/町の財政規模〕100%以内が健全財政。2005年は、149.2%でした。(下水道、広域共同事業の借入は、含まず計算)

国の財政困難で、収入増は難しく、毎年予算額の10%を借金返済にして、新規の建設事業は予算額の5%をめどに借入して行いながら、健全財政を目指しても20年かかります！



嵐山町〔1995年と2005年比較〕

	1995年	2005年	
収入	79億0378万	53億7548万	100%
町税	20億4880万	20億4880万	51%
普通交付税	14億6466万	5億4783万	10%
借財	15億9890万	3億4330万	6%
支出	77億0830万	52億0046万	100%
人件費	11億2182万	13億4240万	26%
借入金返済	5億2691万	8億0963万	16%
扶助費	3億3601万	5億2220万	10%
他会計へ	2億9743万	6億1925万	12%
建設費	35億9512万	3億3037万	6%
借入金総額	69億5759万	64億2462万	
積立金	14億2172万	3億5666万	
実質的将来財政負担額比率	139.2%	149.2%	

実質財政負担額・借入金残高・一時借入金・積立金残高(1985~2005)

